

令和 4 年度 学校評価報告書

園 名 本 庄 幼 稚 園

1 教育目標

- ・明るく元気な子
- ・心豊かな子
- ・意欲をもって遊ぶ子

2 重点目標

「人とのつながりを通し、共に育ち合う子の育成」
4,5 歳児が思いを表現し合い、心を動かして活動できる環境構成や援助のあり方を探る

3 自己評価結果

分野領域	評価項目	幼稚園の取組状況・改善の方策
教育課程	異年齢混合保育において 4,5 歳児が共に育つ保育の工夫 ・安心して自分から動き出し、人とかわりあって遊ぶ楽しさが味わえる環境や場の構成の工夫 ・目的に向かって友達と工夫し、遊びや生活を進めていく楽しさが味わえるような保育の展開(教師の援助)について考える。 ・4,5 歳児が思いを出し合い、心を動かして活動するための教師の向き合い方について丁寧に進める。	・4歳児は、安心して過ごせる場作りを心掛け、やりたい遊びを存分に楽しめる時間を十分に保障することができた。5歳児は幼児が主体となって目的に向かって話し合ったり、考えたりする姿を見守りながら幼児がやりたいことに対して丁寧に向き合ったりすることに努めてきた。 ・教師の向き合い方については、教師対幼児とのやり取りになってしまう場面があるので、今後も幼児が意見を出す場面をじっくりと待つことや、幼児同士の意見を橋渡しすることを意識していくようにする。
学校園所連携	地域を基盤にした連携活動の工夫 ・中学校区園所連絡会において情報を共有する。 ・小学生交流を通して、幼児たちの育ちに向き合ったり、交流後の教師同士の意見交換を大切にしたりする。	・今年度は、連絡会を実施し、参観や情報交換をすることで課題を共有することができた。 ・隣接する小学校との様々な交流活動を通して、小学生や教師に親しみをもつことができた。次年度も連携を継続し、交流後の意見交換や参観等の機会を充実させていきたい。
家庭・地域との連携	園運営、園行事への保護者や地域の参画の促進 ・家庭や地域への情報発信において幼稚園教育への理解を得る。 ・近隣校区や市内の親子が交流できる行事を計画、実施し(子育て支援事業の案内配布)子育てについて話し合える場を作る。 ・家庭や地域社会と連携した危機管理体制の推進	・園だよりやクラス通信を定期的に配布、日々の活動写真やコメントを掲示し、保護者にお知らせすることができた。また、地域の方の協力や支えてくださる思いを幼児に伝えることを日々心掛けてきた。 ・子育て支援については参加して下さる家庭が少ない。計画について参加しやすい活動内容や時間、情報発信の方法等を検討していく。 ・地域の防災訓練に親子で参加し、様々な防災体験をすることで貴重な体験となった。地域の方ともつながりをもつことができるので今後も継続させたい。

4 学校関係者評価

- ・園に来ると心からの感情で子ども達は話をしてくれ、行事での子ども達の成長にはいつも驚かされる。少人数でもそれぞれが役割をもち、それらを果たしながら、これだけのことができることに成長を感じた。
- ・幼稚園は子どもの成長の中でも基礎の部分で育てている一番大切な時期である。幼稚園での丁寧な関わりが大切であり、基盤となっていく。
- ・4歳から5歳の一年の成長がとても感じられ、子どもの主体性を大切にしたい、考える力を育ててもらっている。
- ・小学生は話を聞いたり、質問したりする力が身に付いている。また、年下の子に対して優しく教えてあげようとする姿が見られる。これは幼稚園で大切にされてきたことが小学校でも生かされてきた結果であり、縦のつながりが強いということである。
- ・地域の子どもの数が少ないこととコロナ禍ということもあって参加が少なかったのかと感じる。子育て支援の活動内容の工夫が必要である。
- ・幼稚園に来ることで元気になっている地域の方の姿がある。幼稚園が地域の方にお世話になっているだけではなく互恵性のある関係である。今後幼稚園が閉園していくことで、地域が弱っていかないと感じる。来年度の交流の在り方については検討していかなければならない。

(別紙様式 2)

人権教育の推進	人(自分)を大切にし、自尊感情を育む保育の工夫 ・幼児一人一人が自分を大切に、思いやりの心を持ち、生活する保育の工夫。 ・教師自身も、幼児や保護者・地域のかたとの関わりの中で、相手の立場や考えを尊重し、自分の気持ちを伝え、コミュニケーションを図る。	・日々の保育の中で自分を好きになり、人を大切にしていけるように自尊感情を大切に育んできた。一人一人の頑張りを認める機会をもち、互いに認め合える関係作りを心掛けてきた。 ・幼児一人一人を大切にし、ありのままを受け止め、受け止められる関係作りに努めていく。 ・今後も様々な人との関わりの中で相手の立場に立って考えることを意識していきたい。	・この時期から人権意識をもたせることは大切であり、相手の気持ちを考えるということを伝えていってほしい。今回の劇遊びの中ではいろいろな考え方が身に付いたと思う。見ただけで判断するのではなく、自分で考えて答えを出していくということを子ども達なりに学ぶことができたと思う。 ・幼稚園での様々な関わりや体験が基礎になって成長していく。自分を大事にしてもらっている、愛されていると感じる経験をしてほしい。
---------	---	---	--

5 総合的な評価結果

- ・少人数学級の中で、幼児が自分の思いを自分なりに伝えようとする姿を大切にしながら保育を進めてきた。また、自分たちで考え、活動を作っていけるように、話し合いの場を大切にしていくなかで、幼児が意見を出す場面をじっくりと待つことや幼児同士の思いをつないでいく教師の向き合い方について今後も意識して取り組んでいきたい。
- ・地域の方々や小学校、他園との交流を通して人とのつながりの楽しさや温かさ、愛されている喜びを感じられるような保育を継続している。来年度は3園交流も実施しながら人との関わりをより深めていけるような保育を工夫していきたい。

6 総合的な学校関係者評価

- ・子ども達の姿を見ていると幼稚園が好きで楽しんで日々生活しているのがよく分かる。
- ・4歳児、5歳児それぞれの一年の成長を感じることができた。
- ・幼児期こそ心の基礎の部分育てている大切な時期であり幼稚園での関わりが基礎になっている。この時期に心を動かせる様々な体験を積み重ねて成長してほしい。
- ・今後3園合同になった時の地域との関わりが課題となってくる。来年度最後の一年を地域との連携の内容を考え充実させてほしい。